

「させぼ温州」の生育相と収量

[要約] 「させぼ温州」は、「原口早生」に比べ着花性がよく新しゅうの発生が多いが、生理落果が早くから始まり落果量が多い。また、果皮の着色は、10月中旬から始まり完全着色期は11月中下旬である。収量は「原口早生」と同等である。

長崎県果樹試験場・常緑果樹科	専門	栽培	対象	果樹類	分類	指導
----------------	----	----	----	-----	----	----

平成10, 11年度長崎県果樹試験場業務報告

[背景・ねらい]

佐世保地域で「宮川早生」の枝変わりとして発見され、無毒化された「させぼ温州」の生育相と果実の生産性を明らかにし、高品質果多収生産の技術確立に資する。

調査地点の概要

品種及び区分	樹 齢	マルチ の有無	圃場の場所
させぼ温州若齢樹	6年生	有	江上地区北部
させぼ温州高接ぎ樹*	高接ぎ11年生	有	江上地区南部
原口早生	8年生	有	若齢樹圃の隣接圃場

\* 無毒化されていない

[成果の内容・特徴]

- ① 「させぼ温州」は「原口早生」に比べ、着花量、新しゅう発生量は多いが、生理落果が早くから始まり落果量が多い。(表1, 図1)
- ② 「させぼ温州」は、「原口早生」に比べ、果皮の着色が遅く、完全着色期は11月中下旬である。(表1)
- ③ 「させぼ温州」の若齢樹は、「原口早生」と同等の収量が確保でき、高接ぎ樹の収量は4000~6,400kgと多い。(表2)
- ④ 「させぼ温州」の若齢樹の果実肥大は、「原口早生」に比べ、9月上旬から大きく推移した。高接ぎ樹の果実は、「原口早生」に比べ、果実肥大の後期に果実肥大が劣る。(図2)

[成果の活用面・留意点]

- ① 「させぼ温州」の結果習性と生理落果の発生機構を明らかにし、高品質果安定生産のための対策技術を確立する必要がある。

[具体的データ]

表1 生育相

調査園	調査年	満開日	着花量*	生理落果程度	新しよ量'	新しよ硬化期	果皮着色 (月, 日)	
							開始期	完着期
若齢樹	10	5, 1	5	多	3	6, 20	10, 10	11, 10
高接ぎ樹	10	5, 1	5	多	3	6, 20	10, 10	11, 10
原口早生	10	5, 1	5	中	3	7, 1	9, 20	10, 20
若齢樹	11	5, 11	4	多	4	6, 30	10, 20	11, 30
高接ぎ樹	11	5, 9	4	多	4	6, 30	10, 20	11, 20
原口早生	11	5, 6	4	中	3	7, 10	9, 30	11, 10

\* 着花量 多 5 > 1 少  
' 新梢量 多 5 > 1 少

表2 収量調査

調査園	調査年	栽植距離 (m)	10a当たり栽植本数 (本)	樹容積 (m <sup>3</sup> )	1樹当たり着果量 (個)	1樹当たり収量 (kg)	10a当たり収量 (kg)
若齢樹	10	4.5×1	222	2.3	30	4.0	900
高接ぎ樹	10	4×5.4	45	33.3	610	89.0	4,000
原口早生	10	4.5×2	111	4.1	160	22.0	2,400
若齢樹	11	4.5×1	222	5.5	124	15.4	3,400
高接ぎ樹	11	4×5.4	45	28.5	1,500	150.0	6,400
原口早生	11	4.5×2	111	4.4	264	27.7	3,100

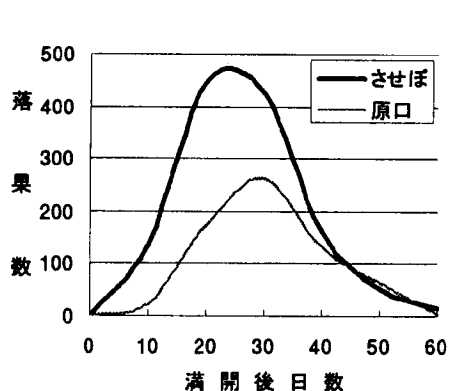


図1 生理落果の波相 (1999年)

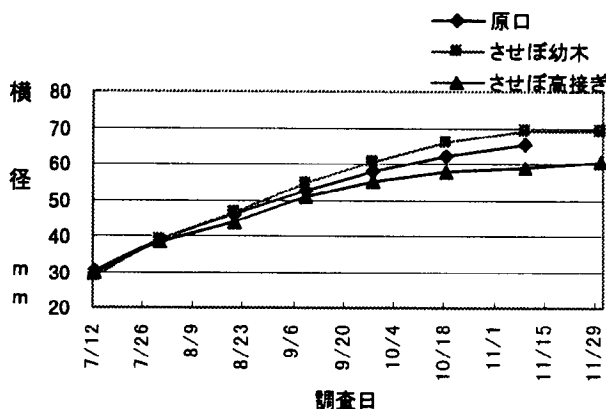


図2 果実の肥大曲線 (横径, 1999年)

[その他]

研究課題名: させぼ温州の早期樹冠拡大と高品質果安定多収技術  
 予算区分: 県単  
 研究期間: 平成11年度 (平成10~15)  
 研究担当者: 高見 寿隆  
 発表論文等: なし